

5 江戸川区男女共同参画推進計画に掲載されていない事業等に関する推進会議委員の意見等

No	事業目的等	推進会議委員の意見等
1	ヤングケアラー支援	<ul style="list-style-type: none"> 本人はヤングケアラーと感じていないが、夜遅くまで働いてる親が帰ってくるまでは、小学校高学年の子が幼稚園の弟と妹の面倒を見ているといった「隠れヤングケアラー」というような問題も多いと聞いている。その辺りの問題も改善していかなければいけないと思っている。 昨年の推進会議では、学校は、ヤングケアラーの問題を把握しているが、本人が申告しないため親に話ができず、解決策を見出すのが難しいという意見があった。子どもが、将来を豊かにするために学校で学んだり様々な活動をしたりする時間を、弟妹の世話をするために費やしているという問題は、何とか解決したい問題である。 (区説明) ヤングケアラーの問題は社会的な問題であると区でも思っている。まずは、ヤングケアラーがどういうものかを知っていただくということでホームページを開設している。以前、子ども家庭支援センターでのファミリーサポート業務において、「お母さんが働いているときに、風邪で保育園に行けない子の面倒をみていて小学校に行けていないのではないか」という相談を受けたことがある。そのときは、親御さんが困らず、お子さんもちゃんと学校に行けるように、直接面談し、区の子育て支援策の案内等、具体的にコーディネートした。この機能は、今は児童相談所に引き継がれている。児童相談所というと、連絡の心理的ハードルが高かったり、「子どもがすぐ保護されて返してもらえないんじゃないか」とご心配の方もいらっしゃるようだが、虐待対応とは異なる支援やサービスを案内できるかと思う。子どもを守るため、ヤングケアラーのお子さんが実際にいるのを知っていたり、そういった情報がある場合は、児童相談所にご相談いただきたい。
2	若年層のライフプラン教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校ではライフプランについても教育をされているのではないと思う。特に女性は、妊娠出産できる期間が限られていて、妊娠・出産は1人でできるものではないので、男性も女性も理解した上で、どうやってライフプランを作っていくか、若い頃から理解してもらうことも大切ではないかと思う。 学校で、専門職に就いている女性を学校にお呼びして、ロールモデルを学生たちに持ってもらおうというような取組は行っているのか。 江戸川区の中学校では、2年生でチャレンジ・ザ・ドリームという職場体験があるが、職場体験の前に、キャリアノートというものを使っている。小学校から中学校、高校と同じノートを継続して使用し、単発的ではなく継続して、進路指導の一環としてキャリア教育を行っている。家庭科の分野では、育児や将来の家族のあり方といったことについても、男女共修で学ぶ機会がある。
3	企業のDX支援	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業も人手不足の状態であるため、DXによって効率化するということが重要な課題となっており、江戸川区が2023年、2024年に開講した企業向けのDX講座は非常に役立っている。DX化に際して避けて通れない課題として、セキュリティの問題があり、人もお金も必要である。江戸川区の支援はまだないが、情報セキュリティの問題も考えていかないといけない。また、資料や記録等の保存期間が延び、ペーパーレス化をどんどん進めていく必要があるため、それに向けての支援も必要であると思っている。

No	事業目的等	推進会議委員の意見等
4	区事業のPR・周知について	<ul style="list-style-type: none"> ・区では非常に素晴らしい取組が行われているが、区民に伝えるところが弱いと感じる。 ・せっかく良いことをやっているのであれば、例えばSNSやインターネットでの広告に力を入れる等、周知する方法を模索していただきたい。 ・どこでどのような区のサービスを受けられるかわからないことが多いので、病院等にわかりやすい一枚紙の案内が置いてあれば助かる。
5	学校行事等における官民の連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・一番気になるところに、民と官の連携という点がある。 ・学校行事が平日に実施されたり、子が入学した際には年度初めに頻繁に学校に行かなければならない等のため、保護者が仕事を休まなければならない。 ・また、子どもを育てる親として、子どもに何かあったときには、すぐ仕事を休んで対応するというのも各家庭でやっているかと思う。 ・学校の周年事業などには、保護者や地域の方も多く参加して手伝うが、何故わざわざ平日にやるのかというご意見もある。 ・各種団体との連携も加味されていると思うが、やはり学校がやっている時間でしか学校が対応できないのかと思う。 ・例えば、他区では、学校の周年事業をあまり平日には開催しないようなところもある。 ・PTAの講演会等は、教員も関わることになるが、休日に開催しようとする、教員の休みを確保しなければならない等あり、民と官の連携が難しいのかという思いがある。